人命救助に垣根なし！

海上自衛隊との捜索救助訓練

〈航空自衛隊 新潟救難隊〉

新潟救難隊員・松島救難隊員・71飛行隊員と訓練後に

UH-60J と US-2 による救助状況

UH-60J で運ばれてきた怪我人を救急車に移す、衛生隊との訓練も必要

9月8日、新潟分屯基地（司令・小澤昇2空佐）にある新潟救難隊は、新潟救難隊と松島救難隊及び海上自衛隊第 71 航空隊（岩国・第31航空群所属）による協同捜索救助訓練を行った。これは海自 71 航空隊と空自が、航空救難発生時における連携要領の確認及び協同捜索救助能力の維持向上並びに隊員相互間の理解の深化を図るとともに、関連する指揮所及び地上活動の向上を図る事を目的に行われたもの。新潟救難隊全隊員による協同捜索訓練となった。

訓練想定は以下の通り。新潟沖で航法訓練実施中の自衛隊機が行方不明となり、第2救難区域（日本海北部・太平洋三陸沖）指揮官より新潟救難隊に緊急発進が下令、救難団は松島救難隊に新潟救難隊への増強を指示、更に第2救難区域指揮官は、部隊研修等終了後に新潟空港を離陸した US-2 が飛行している事を鑑み、海自航空集団司令官に航空救難の協力を依頼、航空集団司令官は第31航空群に対し US-2 による協同捜索救助の実施を命じた。

U-125A と UH-60J

新潟救難隊と松島救難隊の U-125A 及び UH-60J と海自 71 航空隊の US-2による洋上における捜索救助は今回が初めて。UH-60J と US-2の同時着水などの捜索救助現場状況だけでなく、空自海自のマーシャリング支援、司令部における情報管理、空自と海自の言葉や機材・意思疎通など、多様な訓練を実施し「一緒に働く人命救助を行う部隊として」手順や認識の違いなどを確認することが出来た。また、US-2 に乗った隊員は「着水までの時間軸がよくわかった」等と成果を語る。

US-2 の離水

航空救難団は「今後演習で同じような状況が出てくるかもしれないが、慣れずに、今後の課題や教訓も他の救難隊とも共有し、次に繋げたい」としている。

新潟分屯基地

新潟空港の西側に隣接し、新潟救難隊の他、航空気象群入間気象隊新潟気象班も所在している。

新潟救難隊は昭和33年5月1日、航空集団司令部臨時中部司令所新潟派遣隊として発足。基地業務も担っているため、総括班・飛行班・整備小隊・基地業務小隊で編成されている。2019 年末までに、航空救難 17 件災害派遣 240 件救助者 1,893 名を数え、航空自衛隊の新潟県における唯一の救難機配置基地として、365 日 24 時間の救難待機をしている。

落下傘等の乾燥塔（左側）

分屯基地内のプール

分屯基地内で見つけた WAF たち